山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会

平成23年５月1日
No.6

『会長ごあいさつ』

山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会
会長　金澤　敬一（社会福祉法人　敬寿会）

日頃より当連絡協議会の活動にひとかたならぬご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

平成２３年３月１１日、三陸沖を震源として発生した東日本大震災は、死者・行方不明者あわせて２万７千人に達するという戦後最大の災害となりました。津波等による直接被害の他、原子力発電所の事故により半径圏内の地域が避難を余儀なくされるなど、社会保障はもとより自治体の機能自体が崩壊する状況になり、居所を失いライフラインが断たれた中で、認知症を含めた高齢者、障害者、入院患者や通院者などへの対応や安全確保が急務となりました。

この震災の発生前のことを考えてみますと、高齢者施設における火災や土砂災害、平成２１年度には新型インフルエンザ禍があり、平成２２年度は夏は記録的猛暑、冬は大雪となりました。口蹄疫、鳥インフルエンザ、噴火による被害、またニュージーランドにおける地震や北アフリカ方面における政情不安なども挙げられるでしょうが、生活基盤そのものが膨大な影響を受けた震災を境に、支障ない生活というものの得難さをこれまで以上に身にしみて実感したという思いでおります。東北管内にあるグループホームでも津波で施設が全壊し亡くなった利用者がおられるなどする他、認知症というものの特質上、避難所で集団的に暮らすことにも支障があるなどし、その安心・安全の確保には大変なご苦労をされているとお聞きします。ライフラインの復旧は各地で進んでおりますが、被害の全貌把握には程遠く、未だ余震も続く中、被災した方々に対し衷心よりお見舞い申し上げるとともに、各関係機関・関係施設などを含め被災地の一日も早い復興を心より祈念申し上げます。

県内各事業所においては人的被害はなかったものの、停電や燃料不足、物流の障害、通信の途絶などライフラインに少なからぬ影響があり、そうした中で皆様より受入れ可能な被災者数まとめ、義援金協力、物的・人的協力など多大なご支援をいただき、重ねて感謝を申し上げる次第です。

さて、介護保険制度においては、社会保障費の伸び率を圧縮する流れから、加算を主としているとはいえ介護報酬の増へと転換されましたが、経済状況はサブプライムローン問題に端を発するなどして直接間接に国内に影響が現れ、依然として厳しい環境が続いています。特養入所待機者が４０万人超えとする統計がある中、緊急経済対策として介護職員処遇改善交付金や介護基盤の緊急整備等が図られ、グループホームに限らず福祉施設のまとまった整備が続いており、さらにはハード整備ばかりでなく雇用対策や就労支援の形で各種助成が策定され、今回県ＧＨ協でもスクラムチャレンジを活用したところです。県ＧＨ協ではブロック化を進め、ブロック活動の活発化に取り組んできたわけですが、交換実習をはじめとした各種研修を充実させることができ、グループホームのあり方を見直すよい契機となったことと思います。

経営主体が様々であるグループホームが全国に多数存在する中、そのつながりを目指し全国グループホーム団体連合会が発足し、本県も全国の連携に参画するということで平成２１年に団体連合会に加入しました。県内のみならず全国単位での諸活動や情報授受等が円滑に図られることとなり、公益社団法人日本認知症グループホーム協会との連携も視野に入れ、引き続き皆様のご協力をお願いする次第です。また岩手県大会から始まった東北ブロックグループホーム大会は、山形県からも参加を続けながら２２年度の宮城県大会で一巡となりました。全国との連携とともに、東北においても震災復興に向けた活動とあわせ、更に良好な関係が構築されるよう期するところです。

現在山形県の人口は１２０万人を切り、高齢化がさらに進んでおります。認知症高齢者の数も増していくと考えられ、介護職員による医行為を含めた医療や介護のあり方、低所得者対策、地域との関係性などにおいてよりきめ細やかな対応が必要となります。３年ごとに見直される介護保険制度については、次回の改定は医療と同時に行なわれるということで、報酬単価ばかりでなく行政刷新会議、地域包括ケア研究会の方針等を含めその動向が注目されます。さらに、高齢者住まい法の制定など、厚生労働省と国土交通省の関わりにより、住まいのあり方に大きな一石が投じられることとなる他、原子力発電所の事故を含めた震災の影響により社会保障のあり方、ライフスタイルの見直しを迫られるのは必至であると考えます。当連絡協議会の活動をさらに活発化し、社会福祉を取り巻く環境、地域における福祉の向上に資するよう、皆様のご健勝と事業所の発展並びに被災からの復興を祈念し、ご挨拶と致します。

「ひもときシート研修」の報告

研修担当理事　伊藤　茂（グループホームあじさい）

「ひもときシート」をご存知でしょうか？これは、援助者が認知症の人へのケアを提供していく上で、困難を感じたり、課題解決ができず悩んだりしているときに、その悩みなどを軽減し、ご本人の立場に立ったケアを提供するのに役立つツールです。このシートは、事実状況の集積や分析をするアセスメントとは違い、事実と根拠に基づいたケアにつなげていくための「思考の整理」を行うものです。この仕事をしていると、介護を提供する側の思い込みや試行錯誤で迷路に迷い込んでしまう事があります。そのような状況から脱するために、「評価的理解」「分析的理解」「共感的理解」の考え方を学び、介護者中心になりがちな思考を本人中心の思考に転換し、課題解決につなげることを目的としています。

今回、この研修会では、「ひもときシート」の意義と使い方を学び、利用者本人の求めるケアを実現できることを目的として開催されました。詳しくすれば次の３種類のシートからの構造になります。

１事例概要シート

援助者が困難や悩みを感じるケースについて、基本情報を整理するためのものです。簡単に言ってしまえば、フェイスシートのような役割です。

２ひもときワークシート

ＡからＥまでのワークシートの流れにそって、課題解決に向けた思考の整理と転換を図っていきます。この中には、いくつかのステップに分かれており、

ステップ1[評価的理解]
Ａ あなた(援助看)が感じている課題　　Ｂ あなたが想定する対応方法

ステップ2[分析的理解]
Ｃ 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう
Ｄ 課題の背景や原因などを整理してみよう

ステップ3[共感的理解]
Ｅ 事例に書いた課題を本人の立場から考えてみよう
Ｆ 課題解決に向けた新たなアイディアを書いてみよう

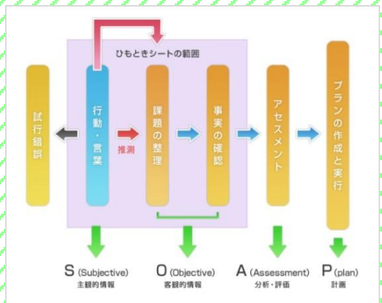
となります。つまり、これらを使うことによって、援助者の立場から見る⇒事実や情報の確認⇒本人の視点から考えるという流れを組むことになります。

３思考展開シート

これは、本人の言葉や行動の背景を探るために、課題や問題に関係がありそうな事実を８つの視点から整理し、最終的にどのような考えにまとまったか今後はどのようなケアを心がけるかといったものが見えてくるとのことです。

参加した方からは、「一方向からだけではなく、多面的にご利用者様のことを捉えることができ、奥深い物であると思った。」との感想が聞かれました。このひもときシートですが、元をただせばパーソン・センタード・ケアを基本に作られており、課題や問題が誰の視点か？といった今までの介護に対する姿勢から、本人中心の思考とはどんな感じ？という今まさに求められている視点へと切り替えをするためのツールのように感じます。ただ、ひもときシートを使ったからといって、必ずしも援助者の思考が正しい方向に導かれるかというと、そうとは限りません。しかし、その方法が深く考え抜いた結果の一つであり、認知症という病気を持つ方の思いを知る事が出来れば、職員と利用者との相互の信頼関係の構築にも繋がるのではないでしょうか。

ひもときシートとアセスメントの違い



編集後記

東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。いつもなら、「そろそろ桜が咲くねえ」などと会話をしていたであろう年度末に、震災の影響であらゆるものが混乱し、日本中が悲しみの中で春の訪れを迎えることになりました。被災地の皆さんは、文字通り命を張って不眠不休の活動をしていると耳にします。今では瓦礫の中に道路が作られ、物資が送られ、少しずつですが復興しつつあります。被災された人々には希望を捨てずに前を向いてほしいと思います。当協議会としても、状況把握や義援金のお願い、また、受け入れの確認をさせていただきました。皆様のご協力本当にありがとうございました。今、世界中が支援の手を差し伸べています。どんな逆境でも、春はやってきて、きっと桜は咲きます。どうかどうか、被災された方々に一日も早く笑顔が戻りますように、私達が出来ることをしっかり行いましょう。

事務局長　／　髙橋　直樹（グループホームやまゆり内　TEL0234-51-2580／FAX0234-51-2581）

ブロック会活動報告

「置賜地区ブロック会活動報告」

平成22年4月22日 『ブロック会』‥新年度活動計画について
6月24日 『ブロック会』‥各研修の日程と交換実習の段取り打ち合わせ
8月　3日 『研修会』‥‥新人研修（会場→リバーヒル長井）
◇講師：介護労働安定センター 臨床心理士
太田 優 氏
◇テーマ…『コミュニケーションとストレス』
9月　2日 『ブロック会』‥交換実習の反省
10月26日 『研修会』‥‥（会場→地域ケアセンター東陽館）
◇講師：介護労働安定センター 臨床心理士
太田 優 氏
◇テーマ…『エゴグラムの活用で
自分の性格を知りケアに生かしていく』

11月25日 『ブロック会』‥介護職員意見交換会

平成２２年度は、地区ブロックの世話人を中心に研修会や意見交換会を実施しました。
活動の実施に当たっては、会員の皆さんのご協力により執り行われたことから、一つの組織が動き始めたような気がします。特に、『介護職員意見交換会』では、「食事作りについて」「介護拒否・帰宅願望者への対応」「中重度認知症者のレクリエーションなど」についてグループワークを行いましたが、この事で同じ仲間としての協力性・共同性が得られたのではないでしょうか。次年度に於いてもより活発に、より深く響き合っていければと思います。

置賜地区ブロック担当理事　　大塚　正紀

「村山地区ブロックでの活動」

今年度より、本格的にブロック活動が世話人を中心に始動しました。
研修を主な活動として８月に新人研修、平成２２年９月１１月に訪問研修、１０月には舟越正一氏を招いての中堅研修、１１月にスクラム２０１０事業の打ち合わせ、１２月に自己評価における改善事項に取り組みの意見交換、１月に２回目交換実習の報告会を実施し研鑽を積む機会を作りました。初めての試みでしたが、各研修に５名ずつが担当になり、役割分担し、各世話人が業務の合間に時間を作り、各事業所のファックス、コピー機等を使い、実施して頂きました。本当にご苦労様でした。また、この間、８月に懇親会、９月に高梨事務局長の歓送迎会を行い懇親を深めました。

村山地区ブロック推進担当理事　　伊藤　茂

村山ブロック各研修の講師

林田俊弘氏

尾崎純郎氏

井上勝也氏

「庄内地区ブロックでの活動」

今年度より地区ブロックでの活動が本格化しました。当庄内地区ブロックでは、昨年に引き続きスクラムチャレンジ２０１０事業を活用いたしました。庄内の事業所を更に４つのスクラムに細分化し、「顔が見える関係作り」を深める活動として、取り組んでまいりました。
それだけではなく、スクラムチャレンジ２０１０事業を活用し、庄内地区ブロックでは平成２２年１２月１５日・１６日の２日間に渡り、介護老人保健施設ひもろぎの園リハビリテーション科長である石井利幸氏と、介護老人保健施設港南あおぞら医学マネージメント部長である田中義行氏の両名をお招きし、認知症介護研修を開催しました。認知症の方の残存能力の引き出し方や、認知症短期集中リハビリテーションの考えをグループホームに落とし込む為の活用方法について具体的にご指導戴きました。

庄内地区ブロック推進担当理事　　佐藤　裕邦

認知症介護研修
（平成22年12月15日･16日）

第4回　山形県グループホーム大会を終えて

研修担当理事　伊藤　茂（グループホームあじさい）

平成２２年１１月２日に４回目を迎えた今大会は、盛大にホテルメトロポリタンで開催されました。
佐藤裕邦副会長の開会挨拶の後、来賓紹介、金澤敬一会長挨拶の後、記念講演として「認知症の症状と適切に向き合うには」と題し、中村裕子教授の講話を脳科学に基づく、認知症介護を具体的な対応方法まで分すくお話頂きました。
休憩の後、大塚正紀理事を座長として、交換実習報告を６名の参加者によりおこなわれました。日頃、自事業所では気づかないことやすぐに実践できそうな工夫まで知る機会になりました。今後、各事業所で、サービスの質の向上につながっていくことでしょう。
今大会の記念講演については、「小規模事業所スクラム２０１０」（国から福祉人材確保緊急支援事業：県をとおして複数事業所連携事業→つまり税金）を使わせて頂き、会場の準備や遠方より著名な講師をお招きすることができました。窓口となった、山形県社会福祉協議会担当の村山様・鈴木様のご協力、ご支援、誠にありがとうございました。

大会写真

記念講演

交換実習報告

発表された皆様、
大変お疲れ様でした。

研修担当理事　梅津　ひろ美（グループホームあすなろ南陽）

このたび第４回を数えた県大会は、２部構成で進めさせていただきました。第１部は記念講演の講師に聖隷クリストファー大学福祉学部教授中村裕子氏をお迎えし、「認知症の症状と適切に向き合うには」と題して対応の基本ポイントを学びました。まず、大脳病理の視点から脳の構造を図解でわかり易く説明をいただきました。次に今回各事業所から出された困難事例も症状により３つに分類し、解説をして頂きました。
それぞれの症状にあった個別的な対応の仕方が重要で、その判断も医療と連携しながら正しい目線が必要であると感じ、それと同時に、我々介護に携わる者は、責任の重いポジションにいることを痛感しました。又、ストレスを与えない様に配慮をしつつ、認知症の方それぞれにあった環境を共に構築していく事が我々の使命であると感じました。中村氏の言葉で、「グループホームとしての立ち位置を考える」という言葉が最後に奥深く心に残りました。
また、第２部の交換実習報告会についてですが、今年度よりブロック毎に交換実習を行い、その中から代表者を選考していただく形に変更となりました。各ブロック代表者の発表は、それぞれ自分の所属するグループホームと対比して学んだ事を発表して下さいました。私達の立ち位置はどこになるかを考え、振り返るにはとても良い機会となったように思いました。